

# 生産性向上 — i-Constructionの導入

## 国立国会図書館関西館新館(仮称)の事例

建設中の関西館新館の工事では様々な最新のテクノロジーが活用されています。例えばASP。クラウドサービスを用い、図面、工事写真、工程表などを電子データで共有しています。共有しているファイルはタブレット端末を使えば現場内のどこでも閲覧できます。加えて、朝礼会場に大型LEDパネルを設置することでタブレット端末から直接各種図面を表示することもでき、分かりやすく、素早く情報を伝えることができます。UAV(通称ドローン)も活用し、毎日、工事全景写真を撮影しています。工事の進み具合が分かりやすく、現場見学に来た人にも簡単に説明できます。



▲タブレット端末に表示した図面



▲大型LEDに図面を映した様子

▶ 関西館本館と  
新館の位置関係の  
イメージ図  
(右:本館、左:新館)



## 断熱計画による室内環境の安定化

関西館新館では、生産性向上の取組みの他にも様々な特徴的な取組みがあります。その一つが断熱計画です。外部環境と書庫との境にバッファゾーンを設け、室内環境を安定化させます。これにより、内部結露防止、空調負荷の軽減、建物の長寿命化を目指しています。



▲新館計画段階での断面図

## この建物について

東京本館の所蔵資料増加に対応する大規模書庫として建設された国立国会図書館関西館は、後世に残す資料を所蔵する書庫棟の増築を3段階に分けて行うこととし、現在は1つ目の書庫棟の工事を行っています。関西館本館の機能を十分に発揮するために、機能面、環境面、景観面の視点からバランスの取れた高機能な書庫の実現を目指しています。



▲国立国会図書館関西館本館の正面外観

所在地 京都府相楽郡精華町精華台8丁目-3  
敷地面積 82,659㎡

【本館】  
建築面積 10,357㎡  
延べ床面積 59,270㎡  
構造 鉄筋鉄骨コンクリート造  
(一部鉄骨造)  
階数 4階建(地下4階)

【新館】  
建築面積 4,585㎡  
延べ床面積 25,003㎡  
構造 鉄骨造  
(一部鉄筋コンクリート造)  
階数 7階建(地下1階)